



おうち英語を続けていると、「本当にこの調子で続けていいのかな？大丈夫なのかな？」と不安になる瞬間・時期があるのではないかと思います。おうち英語は基本的に各家庭での取り組みで、比較対象となりうる存在が身近にいないことが多く、ネットでの情報の信頼性も不確かなことが多いため、おうち英語の進捗状況の目安となるものがほぼない状態で暗中模索の手さぐりになってしまうことも多いもの。

客観的に見て期待される効果が上がっていないのであれば、適切なテコ入れや与える教材やレベルなど方法の修正が必要になってきますが、もしかしたらただの不安から漠然と焦っているだけであって心配する必要がない場合もあつたりします。しかしながら、おうち英語には明確な万人に有効なマニュアルのようなものは存在せず、たまごクラブやひよこクラブのような育児雑誌に載っているような発達目安表や成長曲線などはありません。何を目安に改善すべきなのか、もしくはその必要がないのか判断するのが非常に悩ましく、手探りの状態になってしまうのもやむを得ないのですよね。。

先が見えないと人は不安になるものですが、むやみやたらと不安になるのもメンタルが消耗するだけのモットイナイことだと思いますので、今日は、これまでわが家がおうち英語を続けてきた経験とオンライン英会話スクールでサポートさせていただいたお子様方の例から一つの目安となる時期・レベルをお伝えしてみたいと思います。

目次

いつぐらいからアウトプットを期待すべき？

英語の読み書きを求める年齢目安

中学校卒業までに到達したいレベル（高校以降で英語を強みにできるレベル）

いつぐらいからアウトプットを期待すべき？

いつぐらいからアウトプットを期待すべき？

「ああ、ウチの子は英語がわかっているんだなあ。」と目に見えてわかるのは子どもの口から英語が聞かれるようになる頃ではないでしょうか。アウトプットというのは、これまでの取り組みの成果が実感できるものですよね。子ども自ら英語を口に始める子もいる一方、通常の日本語圏でのおうち英語では、お子さんの性格によっては促さないで英語をアウトプットしないこともよくある話です。ということで、アウトプットに関しても「いつぐらいからアウトプットを期待すべきか」という目安が必要になってくるのではないかと思います。こちらは年齢で一律区切るものではなく、おうち英語を開始した年齢とおうち英語に取り組んでいる時期を合わせて考える必要があるかと思っています。発話には個人差がありますが、生後まもなく～乳児期におうち英語をスタートされた場合は、日本語の発話と同時期に英語も単語や簡単なフレーズの発話が始まるケースもありますし、日本語の発話の方が先行し、英語はあまり出てこないというケースも見られます。これらはおうち英語の量と時間に起因している場合もあれば、お子さんの個性・性格に関係している場合もありますので一概には論じられませんが、いずれも3歳後半から4歳ぐらいに英語の発話があるかどうかというのを一つの目安にされると良いのではないかと思います。「オンライン英会話はいつから始められるのか」というご質問を受けますが、もちろん発話が早い方の場合、2歳半前後からご受講を開始される方もいらっしゃいますが、むしろそちらの方がケースとしては少ないです。私は「3～4歳がオンライン英会話スタートの適齢期です。」とお答えするようにしていますが、3～4歳にな

ると一般的に日本語の発話も進んできて、幼稚園・保育園などで他者と交流するという社会性も培われ始める時期ということで、英語のアウトプットも無理なく求めていくことができる時期です。すでにこの時期に英語の発話が見られるのであればより伸ばしていくためにアウトプットの機会を多く設けていくこと、乳児・幼児期より英語を与えているのにもまだこの時期に英語の発話が見られない場合は、アウトプットの機会を与え発話を引き出す働きかけをし始める必要があると思います。「英語が子どもの中に貯まれば自然に溢れてくる」という説もありますが、子どもには言語を場面によってチョイスする力もありますので、英語を話す必要がないシーンで英語をある日突然流暢に話始めるということは期待しない方が良く私は考えています。この時期にアウトプットの機会を一定期間（半年ぐらい）与えても発話が思うように伸びない、発話が出ないという場合は、インプットの方法を見直す機会を持つべきと捉えていただくとよろしいかと思っています。

4歳以降におうち英語をスタートした場合は、上記は当てはまらず、だいたいおうち英語開始から1年後ぐらいしたらアウトプットを引き出す機会をうかがうというスタンスで良いのではないかと思います。年齢が上がれば上がるほど、羞恥心やプライドなどいろいろな問題が複雑に絡んできてアウトプットを阻む可能性も高まりますので、4歳以降におうち英語を始めた場合、あまり時期を待たない方がいいのではないかと私は思っています。

英語の読み書きを求める年齢目安

英検の受検者層が低年齢化してきている影響なのか、「早く読めるようになってほしい!!!」、「読めるけれど書くとなると全然ダメ・・・」といった悩みや焦りをお持ちの方も多いのではないかと思います。「語学は4技能」という考え方から、「読み」「書き」「話す」「聞く」をバランスよく伸ばしていかなければとお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、人の言語習得の順序は、【聞く】→【話す】→【読む】→【書く】というステップを踏んでいくとされています。幼児期のおうち英語は【聞く】【話す】が中心となり、早くおうち英語を始めたからといって「早く読めるようになったり、早く書けるようになる」ということはありません。

読み書きに関しては、非常に個人差が大きいと感じています。わが家の二人の子どもにしても、英語の読み書きの時期は両極端で、上の娘は本当に早く2歳にはもう自力読みしていましたが、下の息子は10歳を過ぎてもちっとも読めるようになりませんでした。ネイティブが読み書きの学習で使うフォニックスの学習適齢期は5、6歳前後とされていることを考えると、おうち英語における英語での読み書きに取り組み始める時期も、日本でひらがなの読み書きの学習時期とほぼ同じ扱いをしてよいのではないかと思います。ひらがななど文字に興味を持ち始めたなど思ったところに同じように英語の読み書きも負担にならない範囲でスタートしてあげるのがベストなのではないかと思っています。わが家のおうち英語の反省点として、娘が早くにひとりでに英語が読めるようになったことから「子どもはみんなそうだ」とサンプル1をすべてと思い込み、息子の読み書きの遅れを発見することが遅れてしまったことです。「嫌がるものは無理にやらせなくてもいいか」との意識も働き、小5まで「見守る」という言葉に隠れたソフトなネグレクトをしてしまったと反省しています。日本語の読み書きはそこそこに対応できる子の中にも英語になると途端に読み書きに困難を見せるディスレクシアの子が一定数いるという知識がその当時はまったくなかったためそのような対応となってしまったのですが、その経験のおかげで今はディスレクシアも視野に入れた対応をお勧めすることができるようになれたかと考えています。おうち英語に何年も取り組んでいるのに英語の読み書きに一切興味を示さない、嫌がるという場合は、違うアプローチを取ってあげる必要があるかと思っています。そのような事例も踏まえ、読み書きに関しては5、6歳を一つの目安にされるのが良いのではないかと私は結論付けています。

中学校卒業までに到達したいレベル(高校以降で英語を強みにできるレベル)

幼い頃から英語を続けていると、流暢に英語を操れるようになる子も珍しくはありません。ただその流暢さというのは、時に「日常会話レベルくらいなら」と形容されるレベル、つまりその子の守備範囲レベルであれば、という注釈が付く場合もあつたりします。一見、オンライン英会話などで流暢に話しているように思っても、自分の趣味であるとか興味のあることを話しているから話せているわけで、自分の守備範囲以外の話を振られると一切話せなくなるということも十分あります。よく英検が英語レベルの指標として使われ、今は英検2級を取得する小学生というのもそんなに稀な存在でもなくなってきました。私が学生だった頃は英検2級と言えば高校生でやっと合格できるイメージだったので、「今の子は本当に早いな～、賢いな～」と思ってしまうように、親視線では「2級すごい!」と思いがちです。ただこの英検2級を取れば、その後はもう安泰かというとなんかそうじゃないなと正直感じています。英検2級の学年相当レベルは現在でも高校3年生が適正とされていますが、言い換えると通常の学校英語を真面目に受けていけば高校3年生で英検2級に合格できる英語力が身に付けられるとも言えます。事実、進学校などではおうち英語などを一切してきていない子でも1年生、2年生で合格する子が多数います。つまりいくら小学校で英検2級を取得したとしても、早く取得したことは一切評価されませんので、その後しっかりと英語力を伸ばしていかないと高校生になったころには周囲に埋もれてしまうということになりかねないのです。英検というのはライティングが導入されたとは言え、所詮4択で2級までは6割の正答率で合格できてしまうため、2級に合格できてもその英語力の幅はかなり広いと言えます。2級合格後も順調に英語力を伸ばしていければ問題ないのですが、その後の一山を超える底力が付いてないとその後伸び悩んでしまうケースも実際に見聞きしているのですよね。

高校入学後も特に英語を勉強せずとも英語を強みにできる分岐点は、英検2級ではなく、準1級以上であると感じています。英検はあくまで一つの目安に過ぎませんが、日本では一番わかりやすい例になるかと思しますので目安例として使っているに過ぎませんが、おうち英語を続けてきて、中学生になったら高校・大学に対応できる英語力が育っているか何か目安になるものが欲しければ、英検準1級ぐらいの問題を解いてみると良いのではないかと思います。娘の場合、中学生のうちに英検準1を取得しましたが、高校では文法を固める必要はありましたが、英語の勉強に大きく時間を割く必要はない状態で乗り切れています。大学入試もなんとか乗り切れそうですが、本当の意味で使える英語にするためにはまだまだ足りないことだらけだとは本人も私も感じるばかりです。語学に終わりはないなあ・・・とため息が出ます。ただこれから大学へと進学し、専門分野を専攻していく娘の英語はすべての分野において完璧なオールマイティーである必要はなく、特定の分野に特化して伸ばして貰って貰ってもいいと思っているので、この先は娘に委ねたいと思っています(^-^)

おうち英語のゴールは人それぞれ、子どもそれぞれだと思いますが、その過程の途中途中のポイントにおける私が考える目安は以上です♪

ご参考になれば(^-^)

出典: MommyKayo Note 2021.3.1 公開記事